

記念講演会限定参考資料

講演会参考年表（内容の正確性はご容赦願います。）				高山彦九郎	宇兵衛広光	宇兵衛隆久	国定忠次
西暦	元号	年	記事				
	宝永		(1704～11) 年代：殖蓮で大干魃（河原田、西久保、上・下植木で田植不能）				
1744	延享	1					
1745	延享	2					
1746	延享	3	上植木村：一高五百六石八斗。				
1747	延享	4	彦九郎：5月8日、上野国新田郡細谷村（現在太田市細谷町）に生れる。父は彦八正教、母は繁（しげ）。年令は数え年。	1			
1748	寛延	1	雨天で稲凶作。前橋領内の農民が一揆を起こす。	2			
1749	寛延	2		3			
1750	寛延	3		4			
1751	宝暦	1		5			
1752	宝暦	2		6			
1753	宝暦	3		7			
1754	宝暦	4		8			
1755	宝暦	5		9			
1756	宝暦	6	関重嶽生まれる	10			
1757	宝暦	7		11			
1758	宝暦	8		12			
1759	宝暦	9		13			
1760	宝暦	10		14			
1761	宝暦	11	塩原太助奉公に出る。	15			
1762	宝暦	12		16			
1763	宝暦	13		17			
1764	明和	1	明和期に大干魃（上・下植木）	18			
1765	明和	2		19			
1766	明和	3		20			
1767	明和	4		21			
1768	明和	5	利根郡下で凶作で、減租の越訴が起こる。	22			
1769	明和	6	農民の徒党強訴の禁止。	23			
1770	明和	7		24			
1771	明和	8	腑分け実見。	25			
1772	安永	1	田沼意次老中となる。	26			
1773	安永	2		27			
1774	安永	3	解体新書発行。	28			
1775	安永	4	学習堂（伊勢崎藩校）設立：彦九郎：伊勢崎藩校学習堂の村士玉水・浦野神村・関重嶽との交遊	29			
1776	安永	5	下植木：板垣喜太夫書上の原を開拓。	30			
1777	安永	6		31			
1778	安永	7		32			
1779	安永	8	伊勢崎藩借用証文：合六百六十七両三分銀七匁弍厘。	33	0		
1780	安永	9		34	1		
1781	天明	1		35	2		
1782	天明	2	天明の大飢饉：1782年（天明2年）から1788年（天明8年）にかけて発生した飢饉。	36	3		
1783	天明	3	WIKIPEDIA：「天明3年3月12日（1783年4月13日）には岩木山が、7月6日（8月3日）には浅間山が噴火し、各地に火山灰を降らせる。火山噴火は直接的な被害ばかりではなく日射量低下による冷害傾向が顕著となり農作物に壊滅的な被害が生じ、翌年度から深刻な飢饉状態となった。」	37	4		
1784	天明	4	国内冷害で被害。	38	5		
1785	天明	5	（神谷年貢減免上訴事件：正確な年代は不明であるが天明前後の可能性が大。名主であった古郡利八と有志は領主に年貢の減免を門訴したが、それを理由に利八は新島に流罪になった。）	39	6		
1786	天明	6	万歳記録帳（上植木水利組合の記録は天明6年まで遡る。）田沼意次免職。	40	7		
1787	天明	7	高山彦九郎も、『臺前日記』の天明7年6月27日の記事で、「人傑の出づるは地霊による、懸かる人傑の此地より出でたるに此地の者共思ひも出でぬといふ事やある、思ひも出でざるものならば、地の神霊悲ミ玉ふて勞して人傑を出だしたるに、郷里の者ノだも思はず、我が功勞も空しと思ひ玉ふべし、」と記し、郷土と郷土の偉人を大切にすることを説いている。松平定信老中就任。	41	8		
1788	天明	8	天明の大飢饉（数年間続く）	42	9		
1789	寛政	1		43	10		

記念講演会限定参考資料

講演会参考年表（内容の正確性はご容赦願います。）				高山彦九郎	宇兵衛広光	宇兵衛隆久	国定忠次
西暦	元号	年	記事				
1790	寛政	2	彦九郎は寛政2年(1790)11月15日の「北行日記」によれば、東北行の帰途に鈴木武助と会っている。	44	11		
1791	寛政	3		45	12		
1792	寛政	4		46	13		
1793	寛政	5	高山彦九郎自刃。11月11日、彦九郎の遺骸を高山家と同宗旨の真言宗寺院、寺町の遍照院内に改葬する。戒名は「松陰以白居士」とつける。伊勢崎藩借用証文：金七百八十三両貳分銀貳匁四分一厘一毛。	47	14		
1794	寛政	6		48	15		
1795	寛政	7		49	16		
1796	寛政	8	勢多郡上泉村に郷倉が建つ（飢饉の蓄備倉庫）	50	17		
1797	寛政	9		51	18		
1798	寛政	10	広光（田沼福次）：幾右衛門広忠のむこ養子となる。	52	19		
1799	寛政	11	上植木村：一高五百六石八斗。田：五拾町一反八畝拾九歩。畑：九拾六町五反六畝拾六歩。	53	20		
1800	寛政	12		54	21		
1801	享和	1		55	22		
1802	享和	2		56	23		
1803	享和	3		57	24		
1804	文化	1		58	25		
1805	文化	2	文化2年（1805）、鈴木武助が著した勸農書「農諭」の中で、彦九郎から聞いた天明の大飢饉の惨状から、飢饉へ備えを説く。幕府が関東取締出役を設置。	59	26		
1806	文化	3	諸穀豊饒、十年來の豊作。	60	27		
1807	文化	4		61	28		
1808	文化	5	関重嶷死す	62	29		
1809	文化	6	二代目宇兵衛 隆久生まれる（満年齢）。	63	30	0	
1810	文化	7	国定忠治生まれる（満年齢）。	64	31	1	0
1811	文化	8		65	32	2	1
1812	文化	9		66	33	3	2
1813	文化	10		67	34	4	3
1814	文化	11	新井雀里：文化11（1814）年～明治33（1900）年。	68	35	5	4
1815	文化	12		69	36	6	5
1816	文化	13	忠次郎の祖父死す。	70	37	7	6
1817	文化	14		71	38	8	7
1818	文政	1	文政期に大干魃（上・下植木）	72	39	9	8
1819	文政	2	忠次郎(数え10)の父与五左衛門死す。	73	40	10	9
1820	文政	3		74	41	11	10
1821	文政	4		75	42	12	11
1822	文政	5		76	43	13	12
1823	文政	6		77	44	14	13
1824	文政	7		78	45	15	14
1825	文政	8		79	46	16	15
1826	文政	9	忠次が無宿者を斬った文政九年（一八二六）の頃、上州（群馬県）と武州（ぶしゅう）（埼玉県と東京都）を担当した関東取締出役は四人いて、二人づつ交替で村々を回っていた。その年の秋、十六歳の忠次は今井村の旧家から、二つ年上のお鶴という嫁を貰った。	80	47	17	16
1827	文政	10	十七歳の時、誤って人を殺してしまい、玉村宿の親分、佐重郎の紹介で武州藤久保に隠れていた大前田栄五郎を頼った。栄五郎の男気に惚れた忠次は博奕打ちになろうと決心する。	81	48	18	17
1828	文政	11		82	49	19	18
1829	文政	12		83	50	20	19
1830	天保	1	吉田松陰生まれる。8月4日、長州藩士・杉百合之助の次男として生まれる。水戸彰考館総裁で後の水戸藩勤皇派の師となった会澤正志斎は「高山彦九郎伝」を著し、水戸を訪問したときにそれを読んで深い感銘を受けた吉田松陰が、高山彦九郎の諡(おくりな)「松陰以白居士」から。	84	51	21	20
1831	天保	2	21歳の時、国定村の紋治親分から盃を受け、縄張りをもらい一家をかまえます。	85	52	22	21
1832	天保	3	船津伝次平生まれる。	86	53	23	22
1833	天保	4	天保大飢饉：天保4年（1833年）に始まり、35年から37年にかけて最大規模化した飢饉。天保10年（1839年）まで続いた。	87	54	24	23
1834	天保	5	25歳の時に(1835年)子分のケンカがキッカケで、島村伊三郎と言う侠客を謀殺した事から、信州へ逃げ身を隠すことになる。5年（1834）国定忠次、島村の伊三郎を殺す	88	55	25	24

記念講演会限定参考資料

講演会参考年表（内容の正確性はご容赦願います。）				高山彦九郎	宇兵衛広光	宇兵衛隆久	国定忠次
西暦	元号	年	記事				
1835	天保	6	天保大飢饉	89	56	26	25
1836	天保	7	天保の飢饉の時は、蔵持ちの旦那たちに隠し米を出させて飢えた人々を救い、日照りに備えて、田部井村と国定村の沼も浚った。各地に一揆が起こる。	90	57	27	26
1837	天保	8	天保大飢饉：1837年2月に大坂で起こった大塩平八郎（大坂町奉行所の元与力）の乱。前年の天保7年（1836年）までの天保の大飢饉により、各地で百姓一揆が多発していた。大坂でも米不足が起こり、大坂東町奉行の元与力であり陽明学者でもある大塩（この頃は養子の格之助に家督を譲って隠居していた）は、奉行所に対して民衆の救援を提言したが拒否され、仕方なく自らの蔵書数万冊を全て売却し（六百数十両になったといわれる）、得た資金を持って救済に当たっていた（WIKIPEDIAより引用）。国定忠次も大平平八郎の感化を受けたと言われている。	91	58	28	27
1838	天保	9		92	59	29	28
1839	天保	10		93	60	30	29
1840	天保	11	忠次郎(31)、逃亡中、四国の金毘羅宮を参拝	94	61	31	30
1841	天保	12	天保の改革。新田郡藪塚の名主新井新右衛門岡登用水の復興許可を上申。	95	62	32	31
1842	天保	13	松下村塾：松陰の叔父である玉木文之進が1842年（天保13年）に設立	96	63	33	32
1843	天保	14	33歳の時に（1843年）、忠治は田部井（たがめい）村で大々的な賭博を開いていた。	97	64	34	33
1844	弘化	1		98	65	35	34
1845	弘化	2		99	66	36	35
1846	弘化	3		100	67	37	36
1847	弘化	4		101	68	38	37
1848	嘉永	1		102	69	39	38
1849	嘉永	2		103	70	40	39
1850	嘉永	3	嘉永3年（1850年）逮捕：忠治磔刑。忠次の墓碑銘は伊勢崎藩士の新井雀里が起草した。	104	71	41	40
1851	嘉永	4	羽倉簡堂『赤城録』を著す。	105	72	42	41
1852	嘉永	5	12月中旬頃、吉田松陰、東北旅行の途中水戸で「高山正之伝」を見、高山彦九郎の存在を知る。	106	73	43	42
1853	嘉永	6	ペリーの艦隊来航。下城弥一郎生まれる。	107	74	44	43
1854	安政	1	広光没：嘉永7年。日米和親条約。	108	75	45	44
1855	安政	2		109	76	46	45
1856	安政	3		110	77	47	46
1857	安政	4		111	78	48	47
1858	安政	5	吉田松陰は1855年（安政2年）に、実家である杉家に塾居することになり、杉家の母屋を増築して塾を主宰した。1858年（安政5年）に藩の許可を得るが、松陰が安政の大獄で肅清されたため、わずか3年で廃止された。船津伝次平：1月に名主に就任。赤城山南麓400町歩の植林事業（水源涵養）に参入。関根水論：広瀬桃木用水の水利に関する裁判で幕府の評定所（裁判所）に提訴された（名主3名による斡旋和解で解決。）。新井雀里が人足を集めて北海道函館に出立。船津伝次平名主となる（27才）：寺子屋師匠、赤城山植林、養蚕業に従事。	112	79	49	48
1859	安政	6	安政6年（1859年）、幕府の安政の大獄により長州藩に松陰の江戸送致を命令。松陰は老中暗殺計画を自供して自らの思想を語り、同年、江戸伝馬町の獄において斬首刑に処される、享年30（29歳没）。獄中にて遺書として門弟達に向けて「留魂録」を書き残す。	113	80	50	49
1860	万延	1		114	81	51	50
1861	文久	1		115	82	52	51
1862	文久	2	大干魃（上・下植木）。藩主に沼地替許可上申。八幡沼開鑿開始。第二次関根水論（議定書で解決）。国定忠治十三回忌。	116	83	53	52
1863	文久	3	藩主工事視察に来村（2/10）。	117	84	54	53
1864	元治	1	八幡沼開鑿完工。天狗党の乱。下仁田戦争：高崎藩（幕府の出兵命令）X天狗党（水戸浪士/尊皇攘夷）。八幡沼の松は船津伝次平が赤城植林用に育成した苗の一部が植えられたという。	118	85	55	54
1865	慶応	1	下流域泥流対策工事着工（7月）。工事関係者に藩主より功労賞を授与（12月）	119	86	56	55
1866	慶応	2	伊勢崎藩郷学を領内各地に設立。	120	87	57	56
1867	慶応	3		121	88	58	57
1868	明治	1	伊勢崎の世直し一揆。	122	89	59	58
1869	明治	2	高崎藩の農民が減租嘆願のため強訴（高崎藩付五万石騒動）。田村仙岳（菊池徳の実弟）が調停。	123	90	60	59
1870	明治	3		124	91	61	60

記念講演会限定参考資料

講演会参考年表（内容の正確性はご容赦願います。）				高山彦九郎	宇兵衛広光	宇兵衛隆久	国定忠次
西暦	元号	年	記事				
1871	明治	4	廃藩置県。治水条目（明治4年太政官第88号）制定（河川一般管理基	125	92	62	61
1872	明治	5	第三次関根水論。富岡製糸操業開始。	126	93	63	62
1873	明治	6	岡登用水の起工。徴兵令発布。船津伝次平：「太陽暦耕作一覧」を著す。樹（うえき）小学校開始（正勸寺を仮校舎とする）。	127	94	64	63
1874	明治	7	関根水論解決（議定書で解決；以後再燃無し）。大前田栄五郎没（82	128	95	65	64
1875	明治	8		129	96	66	65
1876	明治	9	第二次群馬県（現在の群馬）成立。榎取素彦初代群馬県令（松陰の妹二人が榎取の妻であった。）菊池徳還暦（寿像/一椿斎歌川芳輝）。	130	97	67	66
1877	明治	10		131	98	68	67
1878	明治	11	野間清治（講談社設立）桐生に生まれる。	132	99	69	68
1879	明治	12	田島弥平ら三名蚕種直接輸出のためイタリヤに出帆。	133	100	70	69
1880	明治	13		134	101	71	70
1881	明治	14	群馬郡下之城村等で農民の水騒動。	135	102	72	71
1882	明治	15	宇兵衛隆久没	136	103	73	72
1883	明治	16	人口：3670万人（内務省発表）。船津伝次平：「栽桑実験録」を著す。忠次33回忌：夫婦墓「菊池千代松 一倉徳子 之墓（新井雀里書）」	137	104	74	73
1884	明治	17	秩父暴動。	138	105	75	74
1885	明治	18	船津伝次平：農商務省の農業巡回教師になる（54才）。	139	106	76	75
1886	明治	19	養蚕家高山長五郎没（57才）。	140	107	77	76
1887	明治	20		141	108	78	77
1888	明治	21	植木尋常小学校。	142	109	79	78
1889	明治	22	大日本帝国憲法発布。両毛線全線開通。菊池徳没（74才）。	143	110	80	79
1890	明治	23	町村制実施：殖蓮村＝上植木十下植木十八寸。殖蓮尋常小学校。新島襄没（48才）。県下の大河川氾濫。台風被害。渡良瀬川洪水。就学児童：	144	111	81	80
1891	明治	24		145	112	82	81
1892	明治	25	広瀬桃木両堰水利組合設置。	146	113	83	82
1893	明治	26	県下降霜大被害。船津伝次平：西ヶ原農事試験場技手になる（62才）。	147	114	84	83
1894	明治	27	前橋に県下初の発電所（電灯点灯）	148	115	85	84
1895	明治	28	豊田佐吉：自動織機発明。	149	116	86	85
1896	明治	29	群馬県農会設立。	150	117	87	86
1897	明治	30	古河市兵衛に足尾銅山鉍毒排除命令書下付。	151	118	88	87
1898	明治	31	船津伝次平没（67才）。	152	119	89	88
1899	明治	32	伊勢崎染色学校開校。	153	120	90	89
1900	明治	33	私立甲種高山社養蚕学校創立。	154	121	91	90
1901	明治	34	藪塚鉉泉開発：伏島近蔵（1837～；大正用水の発案者）没（64才）	155	122	92	91
1902	明治	35	大降霜で桑園被害甚大。殖蓮尋常高等小学校（高等小学校併設）。	156	123	93	92
1903	明治	36	ライト兄弟飛行機発明。	157	124	94	93
1904	明治	37	対露宣戦布告（日露戦争）。	158	125	95	94
1905	明治	38	伊勢崎織物の功労者下城弥一郎没（53才）。	159	126	96	95
1906	明治	39	満州鉄道会社設立。	160	127	97	96
1907	明治	40	小学校令改正（義務教育6年制）	161	128	98	97
1908	明治	41	御木本幸吉真円真珠発明。	162	129	99	98
1909	明治	42	浅間山大爆発。織物：機業戸数21（工場あり3）。賃機戸数500。職工：男1、女650。機台数530。絹織物：100,968反。	163	130	100	99
1910	明治	43	大雨で明治年間最大の行方不明者（502名）。上植木村：1768名（男855、女913、戸数285、6.2人/戸）就学児童：672。佐波郡殖蓮村郷土	164	131	101	100
1911	明治	44	浅間山大爆発。細野格城著「五万石騒動（田村仙岳につき記述）。」	165	132	102	101
1912	明治	45	明治天皇死亡（61才）。	166	133	103	102
1913	大正	2	八幡沼開鑿の碑建立。群馬県の人口百万人突破。	167	134	104	103
1914	大正	3	第一次世界大戦。絹織物暴落。	168	135	105	104
1915	大正	4		169	136	106	105
1916	大正	5	水車で押し麦の製造開始（前橋）。	170	137	107	106
1917	大正	6	中島知久平飛行機研究所設立。	171	138	108	107
1918	大正	7	大正用水期成同盟会設立。大干魃で米騒動多発。	172	139	109	108
1919	大正	8	節米のため麦を食う（県職員）。	173	140	110	109
1920	大正	9	戦後恐慌(1920)。不況で各市場は暴落。	174	141	111	110
1921	大正	10	桐生市制施行。	175	142	112	111
1922	大正	11	アインシュタイン来日。	176	143	113	112
1923	大正	12	関東大震災突発。	177	144	114	113
1924	大正	13	高崎競馬場設置。	178	145	115	114
1925	大正	14	イタリヤ：ファシスト党独裁宣言。	179	146	116	115
1926	大正	15	大正天皇死亡（47才）。	180	147	117	116
1927	昭和	2	金融恐慌(1927)。「忠次度日記（股旅映画/大河内伝次郎主演）」	181	148	118	117
1928	昭和	3		182	149	119	118

記念講演会限定参考資料

講演会参考年表（内容の正確性はご容赦願います。）				高山彦九郎	宇兵衛広光	宇兵衛隆久	国定忠次
西暦	元号	年	記事				
1929	昭和	4	(1929年)：世界恐慌	183	150	120	119
1930	昭和	5	昭和恐慌(1930)	184	151	121	120
1931	昭和	6	中島飛行機株式会社設立。	185	152	122	121
1932	昭和	7	伊勢崎織物工業組合設立。「女国定(第一回トーキー映画)」	186	153	123	122
1933	昭和	8	ヒットラー内閣成立。	187	154	124	123
1934	昭和	9	東北地方に大冷害。	188	155	125	124
1935	昭和	10	県下に大風水害(明治43年と並ぶ規模)	189	156	126	125
1936	昭和	11	二・二六事件	190	157	127	126
1937	昭和	12	ろこうきょう事件。	191	158	128	127
1938	昭和	13	国民総動員法公布。	192	159	129	128
1939	昭和	14	ドイツ：ポーランドに進撃(第二次世界大戦始まる)。	193	160	130	129
1940	昭和	15	伊勢崎市制施行。	194	161	131	130
1941	昭和	16	太平洋戦争勃発。大沼用水(赤城大沼より導水：船津伝次平発案)着工。	195	162	132	131
1942	昭和	17	米空軍本土初空襲。	196	163	133	132
1943	昭和	18	三共電器株式会社設立。	197	164	134	133
1944	昭和	19	大正用水工事：農地開発公団により着工。県下各地に干害：陸水稻に被害大。	198	165	135	134
1945	昭和	20	ボツダム宣言を受諾。敗戦。大正用水仮通水(7/上旬)	199	166	136	135
1946	昭和	21	米よこせデモ	200	167	137	136
1947	昭和	22	9月カスリーン台風(昭和22年台風第9号)	201	168	138	137
1948	昭和	23	伊勢崎市農業組合設立。アイオン台風で県下に被害。	202	169	139	138
1949	昭和	24	キティ台風で県下に被害。湯川秀樹：ノーベル賞。	203	170	140	139
1950	昭和	25	大正用水事業：県営となる。県経済連合会発足。	204	171	141	140
1951	昭和	26	大正用水が完成(赤堀町)。パチンコ屋激増。	205	172	142	141
1952	昭和	27	東電：人工降雨の実験。	206	173	143	142
1953	昭和	28	テレビの視聴始まる(民放テレビ放映開始)。	207	174	144	143
1954	昭和	29	殖蓮中学校消失。	208	175	145	144
1955	昭和	30	第一回原水爆禁止世界大会。	209	176	146	145
1956	昭和	31	宗谷南極に出発。大沼用水完成(船津伝次平→木村与作→樺沢政吉の三)	210	177	147	146
1957	昭和	32	ジラード事件。	211	178	148	147
1958	昭和	33	吾妻川総合開発調査開始。	212	179	149	148
1959	昭和	34	浅間山大爆発。	213	180	150	149
1960	昭和	35	カラーテレビ本格放送開始。	214	181	151	150
1961	昭和	36	農業基本法成立。	215	182	152	151
1962	昭和	37	堀江青年ヨットで単独太平洋横断。	216	183	153	152
1963	昭和	38	ケネディ大統領暗殺。	217	184	154	153
1964	昭和	39	東京オリンピック。	218	185	155	154
1965	昭和	40	朝永振一郎：ノーベル賞。	219	186	156	155
1966	昭和	41	文化大革命。	220	187	157	156
1967	昭和	42	群馬用水通水。	221	188	158	157
1968	昭和	43	イタイイタイ病：公害病認定。	222	189	159	158
1969	昭和	44	アポロ11号月着陸。	223	190	160	159
1970	昭和	45	伊勢崎市制30周年。	224	191	161	160
1971	昭和	46	連続女性殺人事件。	225	192	162	161
1972	昭和	47	第一次田中内閣。連合赤軍事件。	226	193	163	162
1973	昭和	48	豆腐一丁60円に値上げ。	227	194	164	163
1974	昭和	49	足尾銅山鉍毒問題決着。	228	195	165	164
1975	昭和	50	前橋市の人口25万人。上武国道工事開始。	229	196	166	165
1976	昭和	51	福田赳夫本県初の内閣総理大臣。	230	197	167	166
1977	昭和	52	群馬県人口180万人を越える。	231	198	168	167
1978	昭和	53	大正用水土地改良事業完成(7月)。歴史学、考古学者尾崎喜左雄没(74才)。	232	199	169	168
1979	昭和	54	赤城国体	233	200	170	169
1980	昭和	55	冷夏で農作物に大被害。	234	201	171	170
1981	昭和	56	福井謙一：ノーベル化学賞受賞。	235	202	172	171
1982	昭和	57	ロッキード事件で有罪判決続出。	236	203	173	172
1983	昭和	58	任天堂「ファミリーコンピュータ」発売。	237	204	174	173
1984	昭和	59	グリコ、森永事件。	238	205	175	174
1985	昭和	60	日航ジャンボ機123便群馬県に墜落。	239	206	176	175
1986	昭和	61	台風10号の豪雨で関東・東北各地に被害。	240	207	177	176
1987	昭和	62	俳優・石原裕次郎死去(52歳)。	241	208	178	177
1988	昭和	63	牛肉・オレンジ自由化交渉、日米間で正式合意。	242	209	179	178
1989	昭和	64	天皇崩御：閣議、新元号を「平成」と決定し、公布。	243	210	180	179

記念講演会限定参考資料

講演会参考年表（内容の正確性はご容赦願います。）				高山彦九郎	宇兵衛広光	宇兵衛隆久	国定忠次
西暦	元号	年	記事				
1990	平成	2	天皇即位の礼。雲仙普賢岳200年ぶりに噴火。	244	211	181	180
1991	平成	3	湾岸戦争。	245	212	182	181
1992	平成	4	上武国道：熊谷市西別府の深谷バイパス分岐から安養寺までの区間が供用開始。環境庁：日本産のトキの人工繁殖を断念。	246	213	183	182
1993	平成	5	皇太子・雅子さん結婚式。太田市：高山彦九郎没後200年記念事業実施	247	214	184	183
1994	平成	6	向井さん宇宙へ。	248	215	185	184
1995	平成	7	阪神淡路大震災。地下鉄サリン事件。知事：東京/青島幸男、大阪/横山ノック。	249	216	186	185
1996	平成	8	消費税5%に引き上げを閣議決定。	250	217	187	186
1997	平成	9	平成9年(1997)5月には記念館を会場に彦九郎生誕250年記念事業が	251	218	188	187
1998	平成	10		252	219	189	188
1999	平成	11		253	220	190	189
2000	平成	12	北関東自動車道一部開通。「国定忠治」（高橋敏著）	254	221	191	190
2001	平成	13		255	222	192	191
2002	平成	14		256	223	193	192
2003	平成	15		257	224	194	193
2004	平成	16		258	225	195	194
2005	平成	17	上武国道：国道50号・今井町から前橋市富田町（藤岡大胡線交点）まで本線2車線、江木町まで上下側道の暫定供用が開始された。	259	226	196	195
2006	平成	18		260	227	197	196
2007	平成	19	「国定忠治を男にした女侠 菊池徳の一生」（高橋敏著）	261	228	198	197
2008	平成	20	北関東自動車道：栃木-茨城間が全通した。上武国道：前橋市上泉町の（主）前橋大間々桐生線まで暫定供用が開始された。2008 国定忠治ファンミーティング開催	262	229	199	198
2009	平成	21	宇兵衛生誕200年	263	230	200	199
2010	平成	22	2010年は忠次生誕200年	264	231	201	200
2011	平成	23	北関東自動車道：高崎市-ひたちなか市間全線開通予定。	265	232	202	201
2012	平成	24		266	233	203	202
2013	平成	25		267	234	204	203
2014	平成	26	八幡沼開鑿完工150年	268	235	205	204
2015	平成	27		269	236	206	205
2016	平成	28		270	237	207	206
2017	平成	29	上武国道：現在は前橋市内の未開通区間で用地買収を進めており、全線開通は2017年（平成29年）度の予定である。	271	238	208	207
2018	平成	30		272	239	209	208
			以下余白です。自分の年表を作ってみませんか。				
西暦	元号	年	記事				
			講演会資料の補遺及びお詫び 講演会資料中の年表は、川端宇兵衛生誕二百年の背景を理解する一助として講師と別個に作成しました。また、年表の出典は一般の出版物及びインターネットによっていますが、出典先を控えておりませんので、本年表のご利用に際しご不便をおかけします事をお断り申し上げます。満年齢か数え年令かも注意が必要。混乱がありますのでご留意お願いします。「忠次」か「忠治」かについては、「国定忠次伝」（山田桂三著/煥乎堂）では「忠次」を採用している。高山彦九郎に関しては、太田市立高山彦九郎記念館の以下のホームページを参照した。 http://www.sunfield.ne.jp/hikokuro/ 。国定忠次の年表は作家井野酔雲氏の以下のホームページを参照した。 http://www.geocities.jp/suiun_an/newpage138.html 。また、星野先生より下記のご指摘を受けました。お詫びして訂正します。「21歳の時、国定百々(どうどう)村の紋治親分から盃を受け、縄張りをもらい一家をかまえます。」（「国定」→「百々」が正しい。）「その年の秋、十六歳の忠次は今井村の旧家から、二つ年上のお鶴という嫁を貰った。」（出典：				

